

科学研究費助成事業（特別推進研究）事後評価

課題番号	19H05462	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	プラズマ誘起生体活性物質による 超バイオ機能の展開	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	堀 勝 (名古屋大学・低温プラズマ科学 研究センター・特任教授)

【令和6(2024)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、研究代表者の研究グループが発見した、プラズマ誘起生体活性物質により発現する抗がん機能や生育促進機能等の超バイオ機能の原因を解明し、新しい学術としてのプラズマ生命科学を構築しようとするものである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>プラズマと溶液との反応で生成された種々のプラズマ誘起生体活性物質を同定するとともに、それによるがん細胞への選択的殺傷効果や植物の成長促進効果の機構を解明するなど数多くの成果を上げた。さらに従来法では製造が困難で高価であった物質の新しい製造法を見いだすなど、プラズマ研究の農工連携、医工連携研究として大きな成果を上げている。様々な効果を発現するプラズマ誘起生体活性物質について、その特定や生体内機序の解明につなげた研究を幅広く展開しており、今後広範な分野の研究者が加わることでプラズマ生命科学の発展につながることを期待する。</p>		